

へ5  
6590  
69

四亥丑月  
入巻集

道徳所室下連



書拔写 竹葉撰

郭公

おのりてうねをうんがふとともえん 芥川

癖の行かん

早の眼入る時

あつ



ふゆあされぬ枯子川  
しづかひけりし時

なつ月

細いさしやさしー夏の月  
しづかぬおをををむやー  
つゝおのまをやー  
ふの月まよのふれまの店りき  
おのまつりりりー夏の月

つゆの光り沈々ー

上

茶ぬれコト蒼をそを暮らん人の上  
清ーさわやらの上り人の上  
おぶらや氷の上の暮るや  
干やるまの上のさし

折園をー

ふゆあされぬ枯子川

人の由りごとさふく  
の終とありの程新ら  
務おらん條ハ来わるとまに  
母の多し候てハ梅葉一ノ所  
裸火の流りと橋の岸うか  
おむの終終あまじいなり

イケ

と  
いつとけんとあつて  
いづつとあつてけつと目遣  
朽書あや化粧のあまの引をくれ  
あまのあひとあまのあひの月  
いざしくあまのあひとあまのあひのあ  
いそぐとも心してあまのあひのあ

松子櫻

規



うらのあまはほこむんこちんか  
ゆめやいこきうとりの何し  
甲子をぬぬの言たれ終るか

ハス

早<sup>子</sup>あふふけはほくの葉くま  
移るれほくしある鳥くま  
ゆかしのふともくろく鳥くま  
ふよほほまのけそあらり

柳枝とあふまあふ 深き  
まのねのほくしとてをり

イケ

一<sup>子</sup>天はまきまのしし  
まねをいほあまの洞くま  
一<sup>子</sup>あまのまのしとてをり  
あまのまのしとてをり  
あまのまのしとてをり

ウーてはつくあ自由ふはなぶ

蜀 魏 子 乃 及 魏

子  
あつふいよこるうううう  
りしんらんわおるまわしたるう  
二おふらものといふくはせん  
山沈の所とあるや  
夜の川ぬか

まのこ

子  
まのこまをさううまをまが  
一 舟うするまはとま  
まありまありまありまあり  
まのこは源見連てま  
まのこはまのこはまのこは  
まのこはまのこはまのこは

上

上  
まのこはまのこはまのこは

日々ししや 行はるるまは ありしと  
等者されい又も 上る ねまきうれ  
物ほや 羨しむるし 舟の上  
鬼舟や 雲つらぬ 天の上  
竹 枝さしゆの むめさんく 風をす

ハス

2  
さあのを 主の座と 言ふまは 舟に  
舟の 柵 枯りし ころ 芝 萎るりり

舟の 舟の 流と ありし 舟 舟の  
舟 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の  
舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の  
舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

イケ

3  
人の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の  
舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の  
舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の  
舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

を白くやいづつとてのりあはぬ  
浜木をよやくさしとておちの山  
入おのちしとておちの山

杜宇

風月為標

はやくしとておちの山  
此上の山はとておちの山  
時とておちの山

地とておちの山  
おちの山はとておちの山  
おちの山はとておちの山

友の月

おちの山はとておちの山  
おちの山はとておちの山  
おちの山はとておちの山  
おちの山はとておちの山  
おちの山はとておちの山



七  
候し みるきよきうしん月の  
飯料の上し ちを候鳥の  
上下てする中はややうの  
その上のてきまひし日傘  
ふちうの糸糸不保てあまの鳥  
かみのうしおてあまの鳥の月

ハス

お場を成て ちを候鳥の鳥  
そをさるし 寸の鳥のしんか  
ふり掃て候の中し ちを不  
候をちて ちを候鳥の鳥  
ちを来をち候てし ちを拾ひ  
ちをさるし ちを候鳥の鳥

イケ

いさうしてちを候鳥の鳥 ちを候鳥の鳥



凡 連のころ残命を  
まのこ

上

夜の池  
まのこ  
夕山や  
早舟や  
花上の  
かたう

ハス

伊  
おを  
流  
そ  
玉  
衣

イケ

梅

橋のあや清しといはれぬぢり  
池つらやのくつろぎやふの月  
活はもも砂かきおろやにさう  
四石の産る所とてせらのきん  
栲つやのひまをこゝろ子福  
まのち程

子規

子  
燕入くく人佛かひもま  
ん

金屋のあやのほろや  
まをいあそくんり埋ちや  
んくすしそまのえきりん  
碧をもあつはまをむや  
時をく清くやえやん小松系

あやの月

あやの月ちをさおきるのま  
あやの月ちをさおきるのま  
あやの月ちをさおきるのま  
あやの月ちをさおきるのま

あつたもん 川あつて 三の月  
つらきよあつていぬ  
任やまき じのまよあや

上

控うけて 赤らよ上る ちまあじ  
米の陸枕の上をこる せひく  
おち候の上う ちくや げんあ  
棟上のさいき ちのち ち後し柳

おの中へ へいあ月や ちまの上  
ちてしまこし ちまあさう 白の上

ハス

ちりー ちりまあぬや 枕のま  
ちりー ちりまあぬや 枕のま  
ちりー ちりまあぬや 枕のま  
ちりー ちりまあぬや 枕のま  
ちりー ちりまあぬや 枕のま

そらうらうらいめあしきく 拂

イケ

一夜屋をさきくさくけし  
一口のあまきさくさくの  
店傍にりくさくさくホの  
吉星のしきくかきく  
ころころはりあまきく林の

入りけあまきくきめく

歌々 東の歌を

そらうらうらいめあしきく  
そらうらうらいめあしきく  
そらうらうらいめあしきく  
そらうらうらいめあしきく  
そらうらうらいめあしきく  
そらうらうらいめあしきく  
そらうらうらいめあしきく

左の月

清きい清りしとまの月おろそ  
やぶとあそび交りしとまの月  
なみの雲の月ふとあそぶあそび  
なみの月ふとあそびあそび  
わねと風木とあそびあそびの月

上

清きあそびあそびあそびあそび

清きまたまの月あそびあそび  
あそびあそびあそびあそび  
上と下二もあそびあそびあそび  
あそびあそびあそびあそび  
あそびあそびあそびあそび  
あそびあそびあそびあそび

ハス

あそびあそびあそびあそび  
あそびあそびあそびあそび  
あそびあそびあそびあそび  
あそびあそびあそびあそび

印馬のまゝとさけし又かたり  
まのせやあまのたてま  
まのせやあまのたてま

いけ

人ひしう田中しあまそんまこの秋  
有他折けんさせんよあま  
あまのせやあまのたてま  
入路しあまのたてま

今<sup>ハ</sup>の一夜の静をまきのま

時き  
まおのほ

子親信やまのたてま

まのたてま

まのたてま  
まのたてま  
まのたてま  
まのたてま



記  
なりきりたしにきりり 時きり

なる月

なる月物しやしをきりり  
生後きりり物あめきりり  
なる月物しやしをきりり  
他處て空にきりりなる月  
河にきりりなる月

今水きりりなる月

上

吹上なる月  
法上のきりりなる月  
ほきりりなる月  
吹中なる月  
中入の雨きりりなる月  
心なる月

ハス

梅を樹をり釘の扱くりり  
知れりん扱語らうらうらうらう  
半たりや神柳汁梅精  
そののわらりのあり方へ進まう  
まてかききよかうつくや廿の料  
そんそりの樹下り此ら治りね

一ヶ

入水りやを告るるや木の葉をば  
いざうそは清をばいつてうらうらう  
田舎程ちりく正月やく日く柳  
息あつら競馬よつぐらうらうらう  
人あれいさうらうらう下らうらう

杜宇

そんそん吉程

中<sup>子</sup>てせん在りくめりり部公  
時公端らとに御治りち

やうなうの〜あゝまきれた時を  
是程のやうな時を  
あゝ〜はれた時を  
時々あゝそれさうさうさう

よの月

川せうに〜あゝ〜され月  
月ねるに〜あゝ〜

あゝ〜あゝのあゝ〜  
あゝのれあゝ〜  
あゝのあゝ〜  
〜あゝ〜あゝ〜

上

あゝ〜あゝ〜あゝ〜  
あゝ〜あゝ〜あゝ〜  
あゝ〜あゝ〜あゝ〜

ころんておるさーはえや英のほらと  
ゆ月やちの位陣を岩の上  
碁<sup>た</sup>よりさか刀一掃り道一 だ

ハズ

好ーも人あ志さしむるを  
掃ーまらさかあのちや<sup>掃</sup>易き  
まらハ掃て携り中し<sup>掃</sup>易き  
は角ハまじ言ぬをし<sup>掃</sup>易き

系つんてよき衣保ん<sup>た</sup>蓮州  
知<sup>た</sup>まらハ携りさるるを

イケ

生ー系批あをさし<sup>た</sup>なまら  
系<sup>た</sup>也<sup>た</sup>携りまかす<sup>た</sup>行の<sup>た</sup>何  
系<sup>た</sup>も<sup>た</sup>携り<sup>た</sup>い<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>ま<sup>た</sup>あ<sup>た</sup>る<sup>た</sup>者<sup>た</sup>系<sup>た</sup>も<sup>た</sup>系<sup>た</sup>  
い<sup>た</sup>あ<sup>た</sup>り<sup>た</sup>岩<sup>た</sup>保<sup>た</sup>を<sup>た</sup>い<sup>た</sup>つ<sup>た</sup>て<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>り<sup>た</sup>る<sup>た</sup>を<sup>た</sup>  
携<sup>た</sup>つ<sup>た</sup>ま<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>お<sup>た</sup>と<sup>た</sup>保<sup>た</sup>と<sup>た</sup>携<sup>た</sup>ひ<sup>た</sup>る<sup>た</sup>

目下より下は片一 来る菊のんね

三平

あつたそ 石見寺 菊のん 菊のん 菊のん 菊のん

菊のん 菊のん 菊のん 菊のん

菊のん 菊のん 菊のん 菊のん

菊のん 菊のん 菊のん 菊のん

特別  
A5  
6590  
69